

神戸市外国語大学 学部英米学科 2013年度コース・シラバス

科目名: 専攻英語 III 講読[3]-G1(通年科目)

曜日時限: 火曜 1 限

担当教員: 中嶋 圭介(法経商コース・准教授)

研究室: 研究棟807号室

オフィス・アワー: 随時(事前にメールでアポを取ってください)

E-mail: info@knakashima.net (授業に関する質問、欠席連絡、教員とのアポ用)

URL: www.knakashima.net (教員の個人ウェブ。シラバスの最新版、関連資料の掲載用)

1. 主題と目標

「失われた 10 年」がいつしか 20 年を越え、内向き・短期志向を強める日本をよそに世界はますます激変している。この講義では、2025~30 年の将来を見通し、その時代までに世界を根本的に変えてしまうかもしれない地球規模課題に関する英語文献を講読する。温故知新という言葉があるが、その逆のアプローチもある。つまり、国境や時間を越えて遠く先へ目線を向けることで、今日の世界状況や今やるべきことが明確になる。この講義では、この後者の知的訓練を通して地球規模課題への理解を深め、批判的思考と建設的議論によって解決策を求める力を養うことによって、グローバル市民・人材の育成を目指す。

この講義は、「専攻英語 IV 購読[3]-G1」の内容と直接リンクしています。4 回生の講義は、リーディング課題の内容、量、講義のスピード、発表やコメントで求められる水準などからより応用編、実践編となっているのに対し、3 回生の講義では、リーディング課題の分量を少し減らし、体系的な文章の理解の仕方、背景知識の追加リサーチの仕方、発表担当者の解説の仕方、メーリング・リストやクラス内ディスカッションを通じた意見発表・交換の仕方などを、ゆっくり目に、丁寧に指導しながら身に付けていただくことを目的とする。

2. 評価の方法・基準

出席(20%): (出席回数) ÷ (通年授業回数) × 20

授業発表・参加態度(30%): 毎回の講義の評価点を「1」とした場合、発表担当者は、メーリング・リスト(ML)上でのコメントが1/3、クラス発表が2/3を占める。発表担当者以外は、ML上での「リアクション・ペーパー」提出が2/3、クラス出席が1/3を占める。(評価点合計) ÷ (通年授業回数) × 30

前期・後期レポート(各25%): 2000~3000字(日本語。希望すれば、英語でも提出可)のレポートをそれぞれの学期末に課す。40点満点で採点し、これをそれぞれ各25点分の評価点に換算する。

3. 履修にあたっての注意

- 7回以上の欠席者に単位は認めない。欠席する際には、事前にメール連絡すること。
- 授業に関する連絡回覧等のため、常時使用可能なPCメールアドレスを初回授業で提出すること。
- 一方的なレクチャーや知識の詰め込みではなく、教員と学生間の質疑応答、学生間の議論から学びあうことを重視する。
- リーディング課題を読んで考えたこと、疑問に思ったこと、自分のリサーチで見つけた興味深い文献・データなど(「リアクション・ペーパー」)を、授業前夜までに、メーリング・リスト(ML)で他のクラスメイトと共有する。発表担当者は、MLで他のクラスメイトの「リアクション・ペーパー」にコメント

を返す。このようなオンライン上の双方向の意見・情報交換を経た上で、授業当日、発表担当者がリーディング課題を要約、解説し、さらに理解を深めるためのディスカッションをリードする。

4. 教科書

米国戦略国際問題研究所 (CSIS) が、全米公立大学協会 (AASCU) とNew York Times 紙とのパートナーシップによって開発した教育プログラム (The Seven Revolutions) をベースにして、メディア記事(英Economist 誌、米Foreign Policy誌、他)、シンクタンク・政府・国際機関の報告書から学術論文まで、あらゆる英文資料にあたってもら。オンラインで入手可能なものを中心に使用する。

5. 指定図書

なし。講義前半は、教員が背景資料を提示することもある。やがてその頻度や量を減らし、各自が主体的、効率的に背景リサーチするスキルを身につける。

6. 担当教員より一言

上述した「リアクション・ペーパー」(文章にして1~2段落程度の分量)をマーキングリストでほぼ毎回提出を求められるということは、発表担当者もそうでない人も、最低限自身のコメントを書ける程度の予習が必要になります。課されるリーディングは、比較的高度な内容のものもあり、分量も他の購読のクラスより多めです。要するに、「かなりきついクラス」になることを覚悟しておいて下さい。

予習やクラス内では高い水準のパフォーマンスを求めます。それはつまり、一行一行の英文直訳にこだわってテキストに意識を埋没させてしまうのではなく、体系的に読みながらその構造や要点をしっかりとつかみ、背景知識が足りなければ主体的にリサーチして補い、得た知識を整理し、噛み砕いて理解し、自身の意見も踏まえてそれらを口頭や文章で表現できる(日本語でもよい)ところまでを、目指してください。

英語読解能力を鍛えつつ、視野を広げ、知識を増やし、表現力を磨く実践的なトレーニングだと考えてください。一年のり切った方には、4回生の応用編、実践編につなぐ知的基礎体力だけでなく、社会に出て英語を使って働くために役立つ何かを身につけたと実感していただけたと思います。

7. テーマ概要

リーディング課題リストを含むシラバス詳細版は、クラスのマーキング・リストで回覧するとともに、以下のウェブサイトに掲載する。授業の進度に応じて内容を変更したり、新しい文献と差し替えたりする可能性がある。<http://www.knakashima.net/lectures>

Revolution 1: Population

- World Population Growth
- Global Aging
- International Migration
- Urbanization

Revolution 2: Resource Management

- Food and hunger
- Water
- Energy
- Climate change

Revolution 3: Technology & Information

- Social Networking
- Genetics and Biotechnology
- Information Management
- Future of Work

Revolution 4: Economic Integration

- Economic Convergence
- Income Inequality

8. 講義の進行の仕方・時間配分*

【講義2日前9PM】発表者以外の「リアクション・ペーパー」締切



【講義前日9PM】発表者からクラスメイトへの「コメント」締切



【講義当日】

教員: 出欠確認・講義内容への導入(5~10分)

発表担当者: 持ち時間の半分を担当文献の要約・要点の解説、残り半分を追加リサーチを踏まえて共有したい他のデータや文献、自身のコメントなどで使う。(15~20分×3人)

全体ディスカッション(残り時間20~30分)

*前期初めは、担当教員からリーディング課題の予習・発表の仕方、内容についてより丁寧な指導やコメントが入る。後期にかけて、上述のような発表担当の学生が中心になってクラスをリードしていくスタイルに移行する。

9. メールングリストの使い方

本講義では、リアクションメールの提出・共有やクラス告知のために「Google Group」のメールングリストを使用しています。

【登録方法】初回授業でPCアドレスを提出。Google Groupから招待メールが届きます。「承諾」をクリックすれば、登録が完了します。

【メール配信の仕方】登録したメールアドレスから、専用のメールアドレスに送信する。

ML Address: gaidai_ML11@googlegroups.com

(注意) リアクション・ペーパーを送る際に、指定された「件名」を使用してください。

例) 4月16日の講義——13-0416_Population

【ウェブ上でのメール閲覧の仕方】ML上で配信されたメールは、Google Groupのウェブ上に残されています。閲覧するためには、gmailのアカウントを作成し、ログインする必要があります。MLにgmailで登録している場合は、新たに閲覧用のアカウントを作成する必要はありません。

URL: http://groups.google.com/group/gaidai_ML11